

入曽地区中学校統廃合検討協議会第8回会議録

- ・開催日時 平成24年12月19日（水） 午後7時～午後8時45分
- ・開催場所 入曽公民館3階ホール
- ・出席者 23名 ※欠席者4名
- ・事務局 生涯学習部長 次長兼教育総務課長 学校統廃合担当課長 同担当主任
学校教育部参事兼教育指導課長
- ・傍聴者 11名

【会議内容】

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 会長あいさつ
- 4 報告事項

（1）学区部会等の報告について

（事務局） ——— 配付資料説明（略） ———

（委員）一つの学区で人数は何人といった目安はあるのですか。

（委員）学区は人数で決めるということではありませんが、中学校ならば、通学距離が6km以内といった目安は法律で謳われています。

（委員）35人学級で、御狩場小区域の在校生については統合しても中学校を移らないケースに関してですが、③案では、入間野中は適正規模を超える19クラスとか20クラスになってしまいますし、どの年に統合しても、入間野中の普通教室の保有数である16を超えてしまっています。このあたりは、どのように考えていますか。

(事務局) 前回の部会で要望がありましたので、このような資料を出させていたいただきましたが、35 人学級は国の方針として決まったわけではありません。

(委員) 35 人学級でないケースでも、③案では、平成 26 年から 18、19、17 クラスと入間野中の普通教室の保有数 16 を超えてしまっていますが…。

(事務局) 入間野中につきましては、普通教室で使う教室と同じ規模の教室は、実際には 18 あります。

(委員) 入間中では、普通教室の教室とは別に、英語などを学習できる教室があって、そこでは習熟度別の指導などが行われています。教室数に余裕がなくても、そういったことは可能なのでしょうか。

(委員) 入間野中には、普通教室 2 クラス分弱くらいの大きさのあまり利用されていないコンピュータ室があるのですが、工事費は多少かかりますけど、そういった教室を普通教室に活用することで何とかやり繰りできるかなとは考えています。

(事務局) 学校施設の整備を担当している教育総務課としては、そういった統廃合に伴って必要な環境整備の費用については、当然お金をかけなければいけないものと考えています。平成 27 年には 19 クラスになる予測も出ていますが、その後の入間野中の学級数は減少することが予想されますので、そういった教室数に余裕のない状態は、ずっと続くというものではないと思われま。

(議長) 少人数学習室として現在使用している教室も、本来は普通教室の教室として使用するものです。そういった柔軟に指導できる教室がなくなることで、教育環境が後退するように捉えられてしまうのは心苦しいところですが…。

(委員) 親が望んでいるのは教育の質です。入間中でも現在は英語などで習熟度別に指導をしてもらっていますが、教室数に余裕がなくなって、そのようなきめ細かな指導をしてもらえなくなるのでは、親としては心外ですし、同じような教育の場を与えてもらいたいと思うはずで。

(委員) 入間野中では、今は教室の数に余裕がありますので、10人くらいの少人数指導の時でも、約63㎡の普通教室の広さの部屋を使っています。ただ、少人数指導の場合、63㎡の広さは実際には必要ありません。あまり利用されていないコンピュータ室というのは、カーペットを敷いたきれいな部屋なのですが、例えば、そこにパーテーションみたいなもので仕切ることによって、普通教室として使えるようにするか、あるいは3グループくらいに分けて少人数指導教室として使えるようにするか、まだ予算の話は全然していない段階ですけど、そういった工夫はできると思っています。

(議長) 教育委員会には、教育の質を下げないための環境整備を、ぜひお願いしたいと思います。

(委員) ③案では、入間野中は適正規模を確保できても、山王中は適正規模を確保できないですね。山王中は平成30年には9クラスになる見込みですが、それでいいのですか…。入間中の生徒が入間野中に行くことになった場合、入間野中では多くの教員を配置できますが、山王中ではできないわけですね。そういった不公平が生じることを考えると、今回の入間中の決断は、他の学校に大きな影響を及ぼすことになると思います。また、入間中が来ることで、今まではゆったり使っていたグラウンドやテニスコートが、そうはいかなくなりますよね。そういった事に関しては、どう考えていますか。

(事務局) 現状では3校すべてが小規模な状態ですので、まずはそういった状況を変える必要があると考えています。学級数が極端に少なくなり、学校運営に支障をきたすようなことがあれば、市で教員を採用するなどして対処していく必要があると考えています。

(事務局) 山王中の学級数の話が出ましたが、東中学校区のうち御狩場小の区域については山王中も選べることになっていますけれども、ちなみに入曽地区の学区の見直し案の資料には、それら生徒の人数は含まれていません。

環境整備の費用につきましては、教育委員会としては予算を持っていませんので、財政部局との折衝になりますが、何とか必要な予算を確保できるよう努力していきたいと考えています。

(議長) 予算の話が出ましたのでお話ししますが、今回の統廃合にあたっては、やはり一市民としても、予算の効率的な執行というのは大事なことでと考えています。入間中を統廃合の対象校とすることに決めた理由としては、校舎や校庭の狭さは以前から指摘されていましたが、私自身もそういった意見を言わせていただきました。先ほど、山王中も9クラスになってしまうとの指摘がありましたが、入間中と山王中とでは、同じ9クラスでも教育環境は全然違うわけです。

(委員) 会長さんは、最初から入間中を廃校にするつもりで議長を引き受けたのですか。

(議長) いいえ、そういうことではありません。私は3校とも経験していますので、アドバイスということも含めて、私自身の考えを述べさせていただきました。

(委員) ちょっと前から気になっていたのと言わせていただきますが、議長というのは、もっと公平な立場で皆さんの意見を聴くべきものではないのでしょうか。

(議長) もちろんそうです。私が一人で仕切ってきたように言われますけど、いろんな意見が出た時に、参考意見として、そういったことを言わせていただいたということです。

(委員) 教育委員会は、入間小の統廃合の時、もう二度と同じ思いはさせませんと言ってくれました。だから、保護者は入間野小と南小に行くことを受け入れたわけで、子ども達にも、そのように説明してしまっています。今回、また同じ思いをさせようとしているわけですが、その事について、教育委員会の人は一度も訂正に来てくださっていません。議会では答弁しているとのことですが、私たちは不信感を抱いていますし、教育委員会の言っていることを信用していいのかと思ってしまう。二度と同じ思いはさせないということは、入間小の親と子どもにとっては、かなり大きなことだったわけです…。

(事務局) お気持ちはよく解かるのですが、ここで学校規模の適正化を図る必要があるということで、二度統廃合を経験することになることもやむを得ないと議会では答弁をしております。それが市としての公式見解

ですので、その点は、ぜひご理解いただければと思います。よろしく
お願いします。

(事務局) 当時の担当課長がそういったことを申し上げたということですが、
今後は、統廃合して良かったと評価されるような教育環境をつくり上
げていきたいと考えています。

(委員) 今までの協議の中で、二度統廃合を経験させるという点については、
検討の要素に入っていたのでしょうか。

(委員) もちろん、そのことは話に出ていましたし、学校を移ったら悪くな
ってしまうのでは困りますから、教育委員会の方にも確認をしました。
中にはうまく馴染めない子もいたようですが、ほとんどの子は移って
良かったと言っているという話でしたので、私たちとしては一安心だ
ったわけです。もっと良い環境になると理屈で言っても、確かにそれ
だけで子どもの気持ちに整理がつくとは思えません。私たちとしても
悩みに悩みましたが、最終的には入間中の廃校ということで結論を出
させていただきました。入間中さんの辛さは、委員の皆さんも共有し
たうえで今日に至っているということは申し上げられると思います。

(委員) 全国的には、二つの学校を廃校にして新しい学校を建てている統廃
合の事例はいくらでも見つけられます。でも、狭山市のように、一
つの学校を廃校にして他の学校に分けてしまおうといった事例は見つ
けることはできません。そういったことに関しては、どう考えていま
すか。

(事務局) 狭山市教育委員会としては、既存の学校施設を有効活用すること
により、限られた資源の中で、将来の子ども達のために、より教育効果
が期待できる方法を検討していくことが使命と考えています。そう
いった使命に基づいて統廃合を進めていますので、他市の事例がどう
こうということではありません。

(委員) 新しい学校を建てるといった意見も今までの協議の中で出ていたと
思うのですが、その辺の経緯も聞かせていただければと思います。

(委員) 私が 3 校を一つにした方が良いと言ったのですが、財政的な事や、

文部科学省でも統廃合の指針が出ているということで、狭山市としては難しいという回答でした。学校を新しく建てることについては、私たちの間でも当初から考えていましたし、そういうことすら検討せずに議論が進んでいったということではないです。

(委員) とにかく私たちとしては、同じ思いを二度もさせたくないという思いがありますので、今後もその事については話をさせていただきたいと思います。

御狩場小の通学区域に関しては、入間川地区で統廃合を検討している東中にも関わってきますが、市全体で学区を見直していこうという考えはないのですか。

(事務局) あくまでも基本方針に沿う形で、地区ごとに進めていくという考えです。

(事務局) 基本方針には、統廃合に伴う学区の見直しによって、他地区の学校の規模の適正化を図るといったことも示されています。まずは地区ごとに検討したうえで、市全体の観点から、他地区に組み入れる方がベターということであれば、そういう形も考えていきたいと思いますというのが基本方針の考え方です。

(委員) 私は、市議会や入間川地区の統廃合の検討協議会も傍聴していますが、事務局の回答は、いつもとても苦しげで、すごく無理をされているような感じがします。入間川地区の統廃合にしても、関係ない遠くの狭山台地区に行かせようとしていますよね。基本方針自体、もう無理があるのではないのですか。事務局の方は、かなり無理な答弁をされていると感じますし、基本方針は見直す必要があるのではないのでしょうか。今、あらためて狭山市の学校教育をどうするかを考える必要があるのではないのでしょうか。

(委員) 東中の多くは富士見小学校区から来る子どもですが、東中に行くよりも狭山台中に行く方が近い子どもたくさんいます。富士見小学校区の中にも、東中だけでなく狭山台中も選べるエリアがあります。

(事務局) 苦しい答弁と言われましたが、基本方針に無理があるとは思っていません。入間川地区では他の地区を入れているじゃないかとのことで

すが、市全体の観点から、他の地区を入れた方がベターであれば、そういう形でもいいと考えています。他の地区に入れることが基本方針に逸脱しているとは考えていませんので、その点をご理解いただきたいと思います。

(委員) でも、狭山台中の PTA 会長や校長先生は会議に出席してないですね。狭山台の人は結果だけを聞くわけですか。

(事務局) 狭山台中に行くことが方向性として決まれば、狭山台の関係の方々にもご出席いただきたいと考えています。

(委員) 狭山台の人は、そういった案が出ていること自体知らないわけですよね。

(委員) すいません、それは入間川地区の会議で話し合うことだと思うのですが…。

いま一番大事な事は何かということをお話したいのですが、例えば、中学校を今年卒業した生徒が、3年間で学習した教科書の総ページ数は4,430ページです。ただ、学習指導要領が新しくなった関係で、今年入学してきた生徒については、卒業までに5,460ページになります。つまり約1,000ページ増えているわけです。でも、授業時数は週1コマ分しか増えていません。それでも、先生たちは教科書の内容を全て教えなければなりませんから、大変な状況です。国はそうは言いませんが、まさに脱ゆとり教育です。指導要領が新しくなったことで、学校の指導体制も大きく変わることが、いま求められているわけです。林間学校など教科書を使わない時間というものもたくさんありますが、そういった活動も何十年も続いてきた積み重ねがありますので、簡単に無くせるというものではありません。このような状況の中で、われわれ校長としてやりたいのは、新しい学校をつくることです。新しい学校をつくれれば、カリキュラムもゼロから作れます。そうすれば、過去にあれをやっていたとか、これをやっていたとか、そういったことにこだわる必要がなくなります。教科書を使う時間が全てとは言いませんが、どの校長先生も、カリキュラムをゼロから作り直して、1,000ページ分増えた教科書の時間に重きを置くことができればと思っているはずです。私は上福岡市の学校に勤めていた時にも学校統合を経験しているのですが、200人子どもが増えたら、その学校は新しくなります。

完全に違う学校になります。今回の統廃合は、新しい学校をつくるチャンスだと、私は思っています。

(委員) 入間中の PTA の方には申し訳ありませんけど、お母さんたちの気持ちは十分解かっているつもりですが、この会議では、入間中を統廃合することは既に決定しているわけです。入間中さんのようなやり取りをやっていては、何年やっても会議は終わりません。私自身、今まで数多くの会議に参加し、幾度も議論を重ねてきた経験がありますので言わせていただきますが、みんなで決めたことに対して、個人的に納得いかないからといって、それを会議の中で貫き通しちゃったら、前に進みませんし、物事決まりません。消費税の論議だって何だって賛成反対ありますけど、どこかでケジメをつけなければいけないわけですし、そのところは理解してもらいたいと思います。

二度も統廃合を経験させるのかという話もありますが、長い人生の中で、もっと不合理なことはいくらでもあるでしょうし、そういったことを乗り越えて人間は成長していくものだと思います。それをお母さんたちが、可哀そうね、アンタが悪いわけじゃないよ、悪いのは市だよ、というふうに言ってしまっただけでは、その子の成長はないと思います。何か壁にぶつかった時、すぐに他人のせいにするようでは、人として成長しないと思います。

やはり、妥協すべきところは妥協してもらわないと結論は出ません。入間中の PTA のお二人には、やむを得ずということで理解をしてもらっている他の委員の皆さんの立場をぜひ考えていただきたいと思います。私たちがやるべきことは、子ども達を如何に安全に通わせるか、そういったことを前向きに検討していくことだと思います。

(委員) 私も同じことを言わせてもらいますが、入間中を廃校にすることは、この会議でもう決まったわけですから、それをどうこう言っただけで始まらない世界なわけで、この会議でそれが覆ることはありませんから、これからは、どのようにしたら子ども達を良い状況にもっていけるかという視点に立って検討していただかないと、意味がありません。だから、そういうことを前向きに話し合っていきましょうよ…。グズグズ文句ばかり言っても始まらない話ですし、これじゃ時間の無駄ですよ…。

(議長) 議長があんまり喋ると、また怒られちゃいますけど、不合理という

言葉が先ほどありましたが、入間中の生徒が山王中か入間野中に行ったとしても、それが不合理なこととは全然思いません。それと、統廃合は市全体の問題ですから、学校が変わる子ども達を如何に温かく迎えられるかということも、今後は考えなきゃいけないと思います。

(委員) 私は、若い頃に入間中で教員をやっていた経験があります。当時は一学年 3 学級ですから、今と同じです。その頃思っていたのは、東中や西中に比べればグラウンドも校舎も狭いですから、もっとああいう広い学校で、子ども達が伸び伸び活動できればいいなって、いつも思っていました。ただ、最近の入間中は、部活も活発だし、勉強も一生懸命やっている生徒たちの姿も見ていますから、小規模校でも十分やっていけるっていう考えもありました。だから、私としては、どっちがいいのかなって最後まで悩んでいました。

私の子どもは二人とも入間中で、運動している姿なども眺めていましたが、今の子は昔の子に比べて身体も大きいですし、このままでいいのかなって、もっと広い所で多くの仲間と色々な活動ができた方がいいのかなって、一方では正直感じていました。入間中がなくなると、通学距離が長くなるデメリットはありますが、それでも今のままでいいのかなっていう思いは、ずっとありました。だから、山王中と入間野中に余裕が出てきている状況の中で、やはり、もっと多くの仲間と交わって、広い視野を持って学校生活を送る方が、子ども達にとっては良いのかなということで、私としてはそういう方向で最終的に判断させていただきました。今までの協議の中で、いろんな意見があったのは確かですし、私自身も悩みに悩んだということだけは、とくに今日初めての委員の皆さんにはお伝えしたかった…。

誰でも自分の子どものことになれば、感情的、主観的に考えてしまうのは当然なことです。だけど、この会議に参加している限り、客観的に判断する目が必要ですし、将来的なことも考えて、広い視野に立って考えていくことが大事だと思います。

(委員) 私も、とても悩みましたし、自分では間違っていないと思った発言が、こうもいろんな思いになるのかというのが正直な感想です。やはりこれからは、入曽地区の現状を踏まえたうえで、子ども達をより良い環境に置くためにはどうしたらいいかをみんなで考えていきたいです。狭山市でも少子高齢化は進んでいますが、入曽地区には高齢の方でも活躍している方はたくさんいますし、今後は入曽地区のコミュニティ

を生かした学校づくりをしていく必要があると思います。教育環境の整備は、学校規模を適正にすることだけでなく、通学の安全確保もその一つですし、入曽の駅前開発の事もあると思います。これだけ多くの意見が寄せられているわけですから、お互い知恵を出し合いながら、未来を担う子ども達を守り育てる責任を果たしていければいいと思っています。

(委員) 入間中の生徒が山王中や入間野中に行くことになったとしても、入間中の保護者の方々が、新しい学校だという意識を持てれば、少し気が楽になるのかなと思います。保護者説明会の内容などを読むと、私たち委員と保護者との意識にズレがあるようで、正直言って頭の痛い思いです。先ほど校長先生から話がありましたが、カリキュラムをゼロからスタートできるような形で話を進めていただければいいなって思っています。

(委員) 既存の学校施設を活用しなければいけないという条件の下でどう進めていくかですから、教育委員会の方にとっても我々にとっても難しい問題です。新しい学校をつくるという考え方は刺激的でしたが、3校とも歴史がありますけど、受け入れ側の山王中や入間野中も名前を変えて新しい学校としてスタートするという考えもあっていいのかなと正直思いました。

(議長) 皆さんからいろいろな意見を言っていただきましたが、最後に入間中のPTAさんから何かあれば…。

(委員) ヤマダ電機の近くの三商自治会区域に住む子どもさんのことですが、部活に行くために入間中まで歩くのですが、真夏の炎天下では学校に着くまでに疲れ果ててしまって、まともに部活ができないといった現状があります。その子がひ弱なだけだと言われてしまえばそれまでですが、女の子は一年中同じ体調でいられるわけではありません。帰りは迎えに来てって親に訴えるような子どももいるのですが、もし山王中に行くようなことになれば、今の倍の距離を歩かなければいけなくなります。ですから、そういう子がいるということを、皆さんには知っておいてほしいと思います。

それと、入間中の保護者からということで今回も資料をお持ちしましたので、皆さんにお配りさせていただければと思います。

それから、「入間中廃校計画の白紙撤回を求める会」で、この夏にかけて署名活動を行ったのですが、結果として総合計 7,748 通、入間中学校区内では 5,122 通の署名が集まりました。これに関する資料も委員の皆様にご覧いただければと思いますので、よろしくお願い致します。

(委員) ヤマダ電機の近くに住む子どもの話が出ましたが、入間市や所沢市の境のあたりに住んでいる子どもに関しては、隣の市の学校にも通えるような選択もできるようお願いしたいのですが、そういうのは可能でしょうか。

(事務局) 行政区分が違いますので、実際にやっている市は殆どありません。多少遠くても、市内の中で考えていただくことになると思います。

(委員) 先ほど、東中学校区の生徒の中には狭山台中に行ける子もいるといった話がありましたが、そういうのは入曽地区でも可能ですか。

(事務局) 議論の対象にはなると思っています。もちろん提示した①案から④案といった基本線は決めますが、その中で選択できるエリアを一部設けることも可能性としてはあるということです。

(委員) 近いからこっちの学校に行きたいとか、この部活があるからこっちの学校に行きたいとか、いろいろ希望があると思いますし、ある程度柔軟にしておかないと、なかなか決まらないと思いますよ。

(議長) 他に何かご意見はありますか。

(委員) 代理出席の人は基本的に発言することが認められていないようですが、入間中の PTA 会長である私の代わりに、他の副会長が代理で出席することになった場合、その人は意見を言えないというのでは、ちょっと厳しい面がありますので、よろしければ代理でも発言できるようにお願いしたいのですが…。

(議長) 入間中 PTA のお二人のうちいずれかの委員さんが出席していれば、その委員さんが発言できますので、それで問題ないかと思います。あくまでもその人に委嘱をしているわけですので…。

(委員) 仮に私が今後ずっと会議に出席できないような状況になった場合、この委嘱状をお返しすれば、副会長なりに新たに委嘱をしていただけますか。

(議長) そういった状況があれば、あらためて事務局に相談していただければと思います。

5 閉 会

【配付資料】

- ◆ 検討協議会第7回会議録
- ◆ 入曽地区中学校統廃合検討協議会委員名簿
- ◆ 学区部会第4回会議録
- ◆ 統廃合に伴う学区の見直し案（御狩場小関連）
- ◆ 〃 （35人学級想定）
- ◆ 〃 （御狩場小関連・35人学級想定）
- ◆ 検討協議会のスケジュール（案）